

今日のみ言葉 195 2010.9.8

「神の愛がとどまるように」

(ヨハネ 17 の 26)

わたしに対するあなた(神)の愛が彼らの内にあり、
わたしも彼らの内になるようになります。

…so that the love with which you have loved me may be in them, and I in them.

これは、ヨハネ福音書において、イエスが最後の夕食のときに語られた長いメッセージの終わりになされた祈りである。この祈りをしたのち、捕らわれ、十字架の刑へと進んでいく。

そのため、主イエスの最終的な願いは、何であったかがこれによってわかる。それは、神の愛が弟子たちの内に宿り、復活したキリストご自身がかれらの内に留まるようになることであった。キリストは神の愛そのものであるから、これは同じことを異なる表現で強調していると言えよう。それほどこのことは、決定的に重要なのである。

人間のあらゆる問題は、このことが与えられるならば解決される。人間の不幸は根本的には愛を受けない、愛を持たないことにある。教育も仕事、あらゆる場における人間関係のもつれなども、神の愛が当事者の内にあるなら必ず解決される。

しかし、それに関わる双方にこの神の愛がかつたら、言いかえたら、憎しみや無関心、ねたみなどがあれば、人間の心は次第に破壊されていく。そして相互の関係もむしばまれていく。戦争という最大の国家間の悲劇も愛と正反対の憎しみによって燃え上がり、多くの人たちが倒れていく。

政治や社会的な問題も、みなこうした神の愛、キリストのような清さや真実がないゆえに、さまざまの欲望や、権力や金、それらがもたらす地位や快樂に引き寄せられていくことから生じている。

病気の苦しみ、それはひどくなれば、医者も家族も友もどうすることもできない。だれも解決不能な死ということに向かっていくだけとなるからである。しかし、そこにもし神の愛がその人の内にあり、キリストが魂のうちに住むならば、その人生最後の苦しみをも支えられ、御国での復活を仰ぎ見つつ、地上の生活に別れを告げていくことができる。

どんなに、人間から冷たくされて、孤独であっても、そこに神の愛がその人の内にあるなら、その孤独のなかでかえって純粋な天来の平安と喜びをすら感じることができよう。悲しみのなかから主を仰ぐとき、最もその愛を感じるからである。

捕らえられる直前、十字架の恐ろしい苦しみが目前に迫っているそのときに語られた このイエスの祈り、それはその後 2 千年の間、無数の人たちに於いて実現してきた。イエスの祈りは必ず聞かれる祈りだからである。

私自身、小さきものであるが、その神の愛を知らされ、生きてはたらくキリストが内に来てくださって、力を与えられてきた。キリストを知らされてから今までの 40 数年信仰を続けられ、新たな力とはげましを与えられてきたのは、まさにその内に来てくださったキリストのゆえであり、また神の愛からの憐れみのゆえである。

主イエスのこの地上生活の最後の祈りを、私たちもまた同じ祈りを続けていきたいと願うものである。

主よ、あなたの愛が私たちの内に留まり、あなたご自身が私たちの内にいつも いて下さいますように、と。



シモツケソウ

伊吹山(滋賀県と岐阜県の県境、標高 1377m) 2010.8.6

この花は、伊吹山で今回初めてその群生に出会うことができました。かつて、徳島県の剣山でも見たことがあったが、それは花の色も淡い紅色で、ごく少ないものでした。しかし、この伊吹山のシモツケソウは、その赤色の色彩があざやかでしかも山の一部では群生していて、まるで赤く染まった庭園のようでした。またある所ではところどころにカワラナデシコなどと共に咲いているのも見られました。

北海道からの帰途、各地の聖書の集会に加わり、最後の日程である京都での近畿集会を前にして、時間をとることができてこの山の植

物たちに再会する機会が与えられ、それは まさに、神のお心が記された生きた聖書を見る思いでした。

今でこそ、車が頂上のすぐ下まで登ってこれますが、昔であれば、何時間もかかって長い登山道を登って頂上に達していたのです。そこでこのような美しい花々が、地上には到底見られないような広範囲に、しかもさまざまな種類のものが咲いているのを目にすることになったわけで、登ってきた人たちの心を驚嘆とやすらぎで満たしてくれたことと思います。

頂上に近いところからは、丈の高い樹木がほとんどなく、弱々しいはずの野草たちが厳しい風雪に絶えて頂上近くの山城で増え広がっていったのはとても不思議なことと感じます。頂上

付近一帯には高山性の美しい花を咲かせる野草たちが広がっています。それらは、一つ一つをとれば、踏みつけられたらそれで枯れてしまうかと思われるほどであるのに、こうしたもっとも環境としては厳しい山頂部で増え、生き続けてきたのです。それは、聖書の有名な言葉、「神の力は弱いところに現れる」というのを思い起こさせてくれます。

神は、このように自然のなかにも、弱いと見える野草たちに、また別の強さを与え、それだけでなく、強そうに見える植物、樹木などが持っていない繊細な美しい花をつけるように創造されているのです。

人間の世界にも、似たようなことがあります。社会的にも活躍し、強そうに見える人、能力に恵まれているように見える人の心にはかえって清い花が咲かず、何も取り柄のないような素朴に見える人のなかにかえって清いものが感じられるということはよくあります。

神は、さまざまの領域において、その愛と万能の力をもって、驚くべき深みのある世界を創造し、いまでも支えておられるのだと感じます。(文、写真とも T.YOSHIMURA)